

条幅研究【かな部】選評：中川抱月

- 出品資格：五段以上。
- 用紙サイズは半切縦か角半。
- A・B課題は同時出品可能。同時出品の場合は出品券の下部にA・Bを明記すること。
- 条幅出品券を作品の右下に必ず貼付すること。(作品の裏右下には鉛筆で段位と氏名も忘れず記入)

書の基本となるものは一本の線です。法帖や古典作品を見て線の動きを理解し、あとは自分自身の持っているものをどう表現するかに尽きると思います。ある書展で小作品の繊細な線の美技に目を奪われ、大字だけがかな作品ではないというものを目の当たりにしました。

最近、私は自然体で書こうと思っていますが自然体こそ難しく頭で書いているうちはまだで、集中力や技術的な修練、奥が深いですね。皆さんの条幅は著しい成長で感動しています。沢山書いてよい物を観てください。多くの作品を拝見させて頂きありがとうございました。

かな部 次号課題

A 新しき手袋はめてここちよく

冬の巷を行くあしたかな

(尾上柴舟)

新しい手袋をはめて心もさっぱりと、冬の街を歩いて行く朝であることよ。

B 初凧や松をこぼるる浜雀

(五十嵐播水)

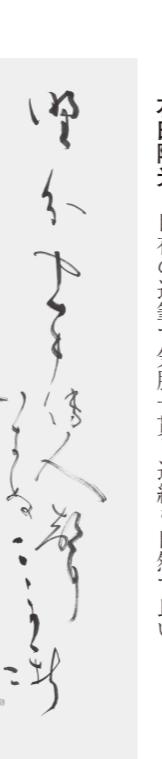
おだやかに風わった元日の海。浜の松の枝から雀達がときおり砂浜へ飛びおりる。

優秀作品



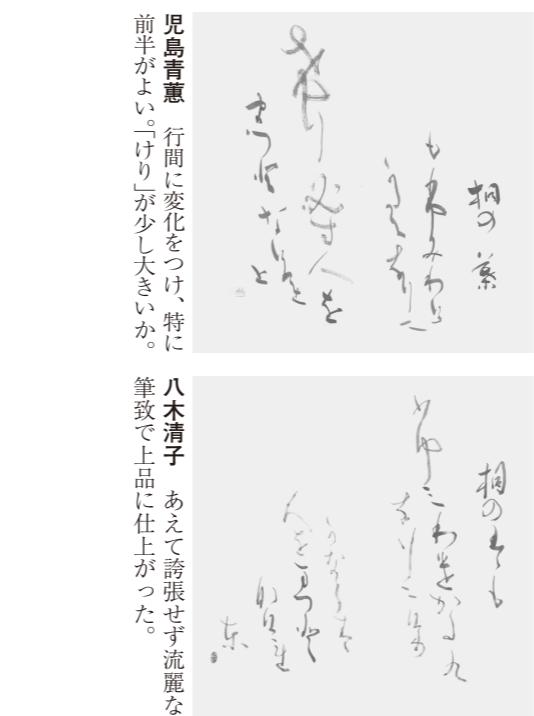
石田陽光

自在の運筆で氣脈一貫し連線も自然で良い。



刑部月梢

文字に大小をつけ紙面にい込んだ線、墨継ぎも効いている。

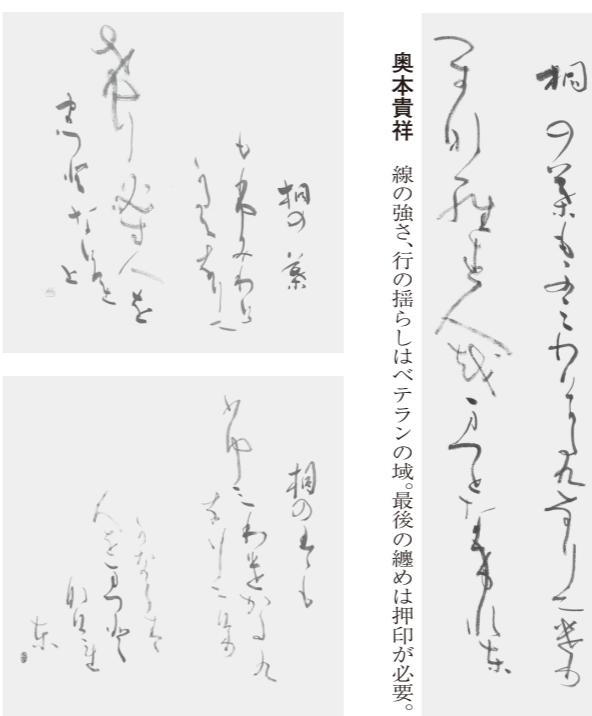


児島青蕙

行間に変化をつけ、特に前半がよい。「けり」が少し大きい。

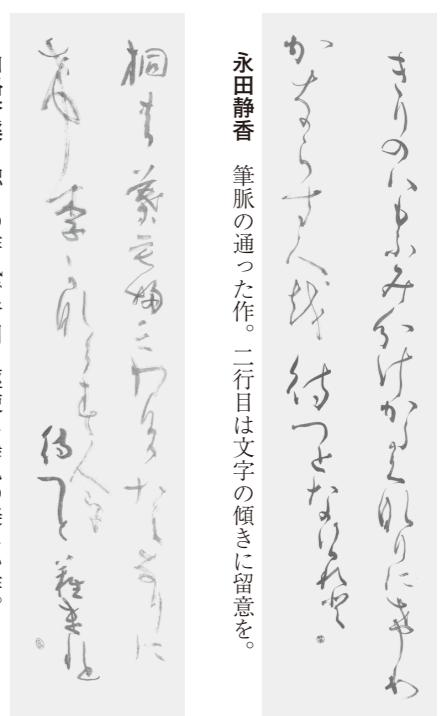
八木清子

あえて誇張せず流麗な筆致で上品に仕上がった。



松宮仁美

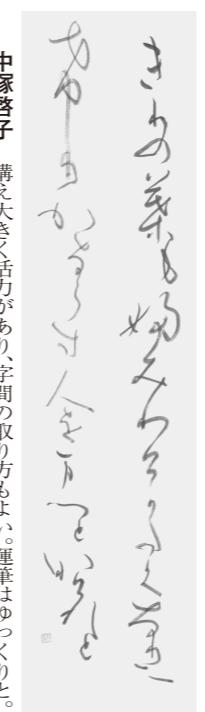
奇をてらうことなく淡々と書かれている。今後は疎密を考え。



永田静香 筆脈の通つた作。二行目は文字の傾きに留意を。

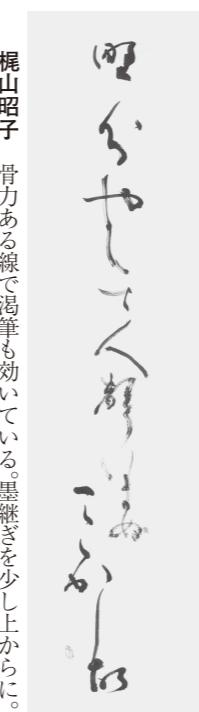
おりのひよこをかけがどりにやわ  
ちよかうすく线引つとだほわや。

〈修士以下の部〉



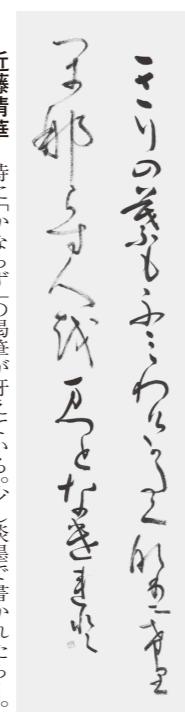
中塚啓子

構え大きく活力があり、字間の取り方もよい。運筆はゆっくりと。



梶山昭子

骨力ある線で渴筆も効いている。墨継ぎを少し上からに。



近藤清華 特に「かならす」の渴筆が冴えている。少し淡墨で書かれたら…。



林田寛鳳 浮沈を効かせた運筆で誠実な作品。潤渴に留意を。



中居大輔 簡素な字で俳句を四行で堂々と収めた。流れもよい。

西嶋青映 温厚なムードで潤渴の変化もよい。ただ終筆はていねいに。

中川雪湖 運腕大きく粘りある線。「なけれど」が少々委縮したか。